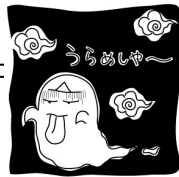


## 8月の行事

### ◇ おはなしの会

- 8月13日(土)午後1時50分から 1階おはなしのへや  
「うみやまがっせん」ほか(お話の会「プーの森」)
- 8月20日(土)午後1時50分から 1階おはなしのへや  
「せんたくかあさん」ほか(お話の会「コロボックル」)
- 8月27日(土)午前10時30分から 2階集会室  
手遊び、読み聞かせ 他



### ◇ えいが会

2階集会室

8月13日(土)午後2時30分から

「落語アニメおばけ長屋」、「吉四六どん」「七夕さま」(46分)

- 「おばけがでるよ!」といって、へやをかりたい人をおいかえしていたら、ある日……。落語でゆうめいな「おばけ長屋」のアニメ。
- 吉四六どんのトンチにおとのさまもカブトをぬいだ!



<携帯電話>

<スマートフォン>

検索・予約・休館日確認は携帯電話・スマートフォンからでもできます。

## 展 示

1階図書室

### ◆「夏休みはこれを読め!」

図書館員のオススメ本や課題図書を紹介。

(8月1日~8月16日)

### ◆「リオ五輪を楽しむ本」

知って楽しむオリンピックやブラジルの本。

(8月1日~8月23日)

### ◆「災害と防災」

9月1日は「防災の日」。災害にどう備えるか。

(8月11日~8月23日)

## 8月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1	2☆	3☆	4☆	5	6
7	8	9☆	10 おやすみ	11 やまのひ 	12	13 おはなしの会 えいが会
14	15	16☆	17☆	18☆	19	20 おはなしの会
21	22	23☆	24 おやすみ	25☆	26	27 おはなしの会
28	29	30☆	31☆			

※ 開館時間：金~月・祝日…午前9時15分から午後5時まで

火・水・木 …午前9時15分から午後7時まで (☆マークの日です)

\*うら面もごらんください



さっぽろ市  
02-S03-15-2006  
27-2-1150  
SAPPORO

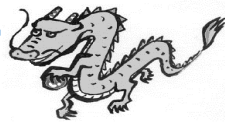
子どもの本

『菜の子ちゃんと龍の子』

日本全国ふしぎ案内シリーズ1 富安陽子/さく (J/913/ト)  
秋祭りの夜、トキ子の前に現れた山田菜の子ちゃん。トキ子は菜の子ちゃんに頼まれて、龍の子が空にのぼるお手伝いをします。龍の子はみんな空にのぼれるのかな？菜の子ちゃんてだれなんだろう？お祭りの夜に二人だけのひみつの冒険がはじまります。

『あったかいな』くすのきしげのり/さく (J/A)

『モンスター・ホテルでピクニック』柏葉幸子/さく (J913/カ)



大人の本



『江戸へおかえりなさいませ』杉浦日向子/著 (914/ス)  
1980年代に江戸ブームを巻き起こした立役者の一人、伝説の漫画家・杉浦日向子のエッセイ集です。浮世離れしているのに、どこか冷静な観察眼を通して語られる江戸と現代日本。「粋の達人」を案内役に、ちょっと斜めから世の中を見てみませんか。

『進化する戦国史』渡邊大門/著 (210/リ)

『呼吸で心を整える』倉橋竜哉/著 (498/ク)

『ホームズ連盟の冒険』北原尚彦/著 (913/キ)

図書館員のオススメ本 今月のテーマ：納涼

『怪談小泉八雲のこわ〜い話』

小泉八雲/さく (J 913/コ)

妖怪が好きですか？百年以上前の日本にも、妖怪が大好きで、くわしい人から、妖怪の話をたくさん教えてもらって、本にした人がいました。それが小泉八雲です。ろくろ首や雪女、君の知っている妖怪はいるかな？



『隣之怪 息子の証明』木原浩勝 (913/キ)

「幽霊なんかいるわけがない」という人でも、「不思議な体験」なら一つや二つ、身に覚えがあるのでは？日常に埋もれそうなちょっと理屈に合わない話を集めてみると、のどに小骨がひっかかったような恐怖を感じます。新品の携帯電話に入っていた二か月前に亡くなった父の写メ、電池を抜いてあるのに動くおもちゃ…。さて、あなたにも、思い出すと首をひねってしまう経験、ありませんか？

すみかわ古道を行く ～南区みちの話～(二)

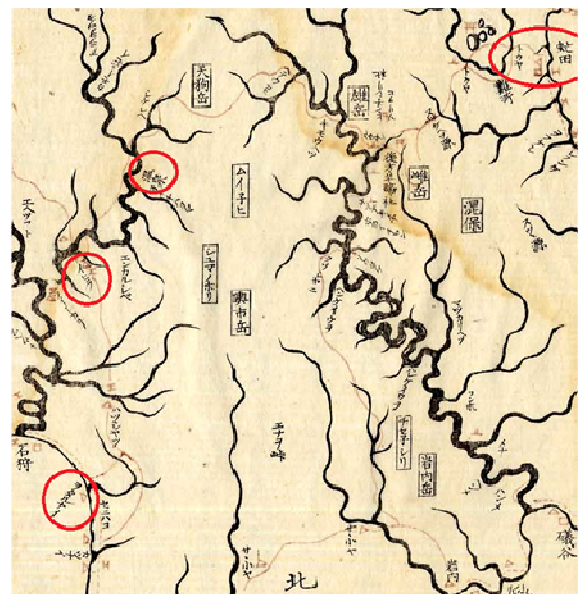
『探検家の道』

南区の歴史の中から「すみかわ古道を行く」と題して道の話シリーズで紹介します。

第2回目は北海道が蝦夷地と呼ばれていた江戸時代の後期に豊平川などの川に沿って探検家たちが歩いた道の話です。前回紹介した道、材木商飛驒屋の伐木図に描かれた「米セホイ道」は石狩川河口から漁川上流の木材伐採場所までの食料運搬ルートでしたが、伐採事業に携わる杓夫（そまふ）や人夫は、同図にある「アブ田道」などを通り、太平洋側から各伐採場所まで入っていました。そもそもこのルートはアイヌ民族が狩猟などのために往来していたようです。1807年（文化4年）、江戸幕府の役人であった近藤重蔵は石狩地方を調査しました。その際、豊平川沿いにさかのぼり、中山峠付近を越えて、虻田方面へ抜けたともいわれています。さらに約50年後の1858年（安政5）2月に、「北海道」の名づけ親としても名高い幕末の探検家松浦武四郎が虻田から中山峠を越えて、豊平川沿いにくんだり、札幌に到達しています。途中、現在の定山溪と思われる温泉に立ち寄り旅の疲れを癒したと『後方羊蹄日誌』に書かれています。その前年の安政4年に函館奉行の命により「サッポロ越新道」が開削されました。沿線にあった豊平通行屋（現在の豊平橋東側）に安政5年6月、宿泊した武四郎は、同宿の和人からアイヌ民族の案内で定山溪のあたりで湯につかってきたという話を聞いています。豊平川沿いに定山溪方面に行くルートは、幕末になると探検家以外にも湯治などの目的で通る人がいたようです。

【参考】『新札幌市史通史1』K211/シ『北海道道路史Ⅲ路線史』K514/ホ他  
右図：『後方羊蹄日誌』松浦武四郎/著 1861年（文久元年）

虻田より羊蹄山麓を経て石狩に至る踏査日誌。虻田から温泉（定山溪）、そしてトイヒラ（豊平）からヲタルナイへ至る道が描かれている。<札幌市中央図書館デジタルライブラリーにて細密画像を公開中。http://gazo.library.city.sapporo.jp >



(図中の地名マル囲みは筆者による。)